

平成 24 年度 第 1 回花巻市文化財保護審議会議

(記録)

日時：平成 24 年 6 月 26 日(火) 午後 3 時 30 分～ 5 時

会場：花巻市役所 石鳥谷総合支所 3 階 3-2、3-3 会議室

----- 次 第 -----

- 1 開 会
- 2 教育長あいさつ
- 3 会長及び副会長の選出
- 4 協議

(1) 平成 24 年度文化財関係事業計画について

- 5 その他
- 6 閉 会

委員 11 名全員出席（高橋進委員 20 分遅れて到着）

（会議に先立って、教育長から各委員に委嘱状を交付、教委事務局職員を紹介）

会議の内容（概要）は、以下の通り。

1 開 会 15：30～

2 教育長あいさつ（要旨）

委嘱状を交付し、新たな委員として中田功一さんをお迎えした。

向こう 2 年間よろしくお願ひしたい。

本日は 24 年度の文化財関係事業についての説明。

また、昨年の大震災に係る支援をしてきた、（被災地での）埋蔵文化財の調査の迅速化を図るための対応等について、後ほど報告する。

昨年は、文化財の指定が、松尾神社石碑 1 件のみであった。

今後とも日ごろから、委員の皆様の調査等を活かしながら、新たな指定をめざして参りたい。

ご協力、よろしくお願ひしたい。

3 会長及び副会長の選出

(文化財保護条例第3条第1項により、会長及び副会長を互選)
暫時、中村課長の議長(進行)による選出協議。(経過省略)
結果、会長に瀬川司男氏、副会長に菊池邦雄氏を選出
～会長席、副会長席に席を移り、両氏からあいさつ(内容省略)

4 協議(ここから、瀬川会長が議事進行)

(1) 平成24年度文化財関係事業計画について

資料2により事務局説明(説明内容省略)

平成24年度文化財課経営方針について、中村課長説明

続いて、一般文化財関係事業計画について、小原係長説明

○質疑応答(主なもの)

阿部委員＝文化財説明板・標柱の設置・修繕の進捗状況はどうなっているか。

小原係長＝古くなったものは、事前に調査して、交換すべきは、交換し、市民の方からの情報を集めて年次計画に沿って毎年交換、設置している。こちらで、把握しきれないものが多いので、委員の皆様からも情報提供をお願いしたい。

阿部委員＝ここが問題。私たちから、ここがこうだよと言わなければ、なかなかかはかどらないというのは、なんとなく取り組みが悪いという感じがする。地域ごとに重点的に調査してはどうか。言われるまで待っているのは、まずい気がする。

小原係長＝コミュニティ会議でも、自前で予算をさいて積極的に設置しているところもある。この情報把握とあわせて、必要なところには、対処していくことにしている。

阿部委員＝その場合、教育委員会という看板になるのか。

小原係長＝あくまでも地域コミュニティの名前になる。

高橋進委員＝具体的に昨年何カ所、設置、修繕したのか。

岡本副主任＝(コミュニティ会議実施について)把握しているのは5、6ヶ所。

小原係長＝(教育委員会実施について)昨年は、大迫町外川目の諏訪神社の桜、新堀城跡、南笹間八幡宮の獅子頭、清水寺の懸仏薬師如来座像の説明板を設置した。

阿部委員＝(要するに)まだ、「東和町教育委員」の標識があるということ。

中村課長＝いっぱいある。ほとんど直っていない。数を数えれば100ヶ所以上。それを全部なかなか直せない。昭和年代に立てたものは、ほとんど朽ちている。立て替えをするだけでもかなり大変な作業(事業量)になる。とりあえず、朽ちてかなり傾いているものは直している。それ以外のものは、表示が「東和町」だったりしているものがまだある。

及川教育長＝基本的に市指定の文化財は、教育委員会が責任をもってやるべき。コミュニティに頼るのではなく、合併した以上は、標記は計画的に変えていくべきであると思う。改めて年次計画でやれるように調査し、予算措置できるように努力していきたい。

瀬川会長＝思い切ってやらなければ進まないと思う。

中村課長＝基本的には、市の指定や県の指定の文化財はこちらで立てている。コミュニティで立てているのはそれ以外の地域文化会の標柱とか説明板。できるだけ説明板の説明を見せてもらうようにしている。誤字脱字、標記間違いがあるとそれがずっと残るので、できるだけ見せてもらうようにしている。地域の、今日、初めて見る標柱を1本見たが、こちらで立てるより、立派なものであった。

いずれ、指定のものは、こちらで実施し、できるだけ花巻市に直すようにしていきたい。

木村委員＝関連して、鼬幣（いたちべい）稲荷の隣の天神社（天満宮）の石碑がかなり傾いており、大きな桜の木が石碑の後ろにかかっている。

中村課長＝及川華山の碑についてですね。木に押され倒れているのは把握している。これについては、コミュニティ会議と協議したいことがあり、コミュニティ会議が階段等の修繕をやって頂いた経緯があり、石碑をなんとか協力して動かして、境内の方へ移設すれば、一括の指定が可能ではないかと思う。指定前のものをこちらから先に動かして指定するという先例をつくりたくないということがある。及川華山の碑は危ないので、ひびが入り、割れる懸念もしている。（このようなことから、）これから協議したい。

大森委員＝（国指定天然記念物の）カズクリについて、「一関でクリに寄生するなんとかという虫による被害が出はじめて、北上してきている。」ということを一関の人から聞き、花巻は大丈夫か、と言われた。アカマツの被害のように、クリについて、同様の被害が懸念される。警戒して、即座に対応できるようにお願いしたい。

小野委員＝御次書留帳について、誰か研究して論文かなにか書いている人がいるか。

中村課長＝解説はしているが、（そのような論文は）ない。

瀬川会長＝光徳寺に市の指定の文書がありますか。

中村課長＝光徳寺には、浅野長吉証文がある。昭和35年に指定されたもの。

瀬川会長＝この間、光徳寺に行って見せてほしいとお願いしたら、どこにいったかわからないとのこと。再度確認しないと、代が替わると引き継がれず、わからないということがある。代が替わってちゃんと引き継がれているか、確認してください。

高橋久委員＝（関連して）個人所有の文化財について、アンケートの際、市に寄贈したいとか、市に預託したいという意思があれば、それを書いていただくなどして、把握して、今後、どこにあるかわからないというようなことがないようにしてほしい。

菊池委員＝（関連して）花巻市には、指定文化財の他にたくさんの貴重な文化財がある。標柱とか説明板が立っているところは良いが、その地域で知らない、振興センターの委員も知らないものについて、保護していかないと、知っている方が亡くなると全くわからなくなる。説明板を立てるなど文化財に関心のあるところは良いが、全く関心のない地域がある。（このようなことから）地域の貴重な（文化）遺産のリストアップをやっていかなければならないと思う。

瀬川会長＝「文化財施設の再編整備」とはどういうことか。また、資料の「花巻市青少年郷土芸能フェスティバル2011」となっているが、今年は2012ではないか。

中村課長＝まず、2011は間違いで、2012です。訂正お願いします。

文化財施設の再編整備については、老朽化している施設もある。資料の保全上非常にまずいのではないかとすることがありまして、そういうものと、あるいは石鳥谷の地域内に同じような施設がいくつかあるということで、それらの資料を1ヶ所で集めて見せた方が良いのではないかと、これらの検討をすること。花巻市内に14ヶ所施設があり、似たような歴史民俗資料を展示しているところとか、酒の資料を展示しているところとか、それらをこれから検討しながら、一つに集約できるものはして、資料の保全上まずいところは、それを是正しながら他のところに移すとか、を考えていくということ。

瀬川会長＝基本的に旧町にもそういう文化施設を1つ置くべき。それがないと、この地域の歴史文化を否定することになる。このことを考慮しながら考えてほしい。

及川教育長＝再編というのは、公の施設として維持していくかどうか。

条例で設置する施設として、これからもやっていくかどうか、について考えていかなければならない。地域の歴史を考え、将来を見通すにあたって、その役割を担うけれども、再編をやっていかないと、いずれこの人口減少の中で、市としてなんでも残すということができなくなる。10万6千の人口で合併し、平成27年に10万2千人になるとしたが、23年のうちに10万1千人になった。おそらく27年には、9万9千人を切るでしょう。そうすると学校も今のように維持できないし、施設も維持できなくなる。公の施設として維持していくことは住民の負担になる。その中で（再編を）できるものはしていきましょう、身軽になっていかないと、今、北上市の予算は350億、花巻市の予算は、480億、この予算は、花巻は維持できない。100億カットしなければならない。合併特例も10年で切れる。これまで、1市3町ごとに交付税を参入してきたが、27年に終わる。それだけで30億減る。やはり、（このような状況を）真剣に考えていかないと、住民の負担につながり、その中で、われわれができるものは何かを考えなければならない。

瀬川会長＝財政のことはわかるが、そこに住む市民の感覚としては、無くされると自分たちの歴史、文化を否定されたような気がするということ。

及川教育長＝無くすということではなくて、公の施設として維持しないで、例えば、総合支所の施設を活用していく、とか、そういうこともありうる。そういうことを考えていきましょう、ということ。

埋蔵文化財事業について、武係長が説明

○質疑応答（主なもの）

阿部委員＝遺跡詳細分布調査の中で、浮田地区の調査をするときは、私のふるさどであるので、是非声をかけてほしい。

中村課長＝わかりました。昨年田瀬地区も歩いたが、だいぶダムの周辺から上の方にかんりの遺跡があり、水没してたと思っていましたが、上の方にかんりの数が確認できるので、この補足調査と、小山田地区の空白地帯になっているところがいくつかあるので、浮田を含めて確認したいと思っている。

瀬川会長＝花巻城の土塁について、調査はしないのか。

中村課長＝調査ではなくて、環境整備は草刈りとか、今回、東御門のところに説明

板を設置して見やすくするということ。

瀬川会長＝前に、（調査したところに）築地の版築が出たが、確認しなければならないのではないか。

中村課長＝そこは、1回切ってから測量までとなっている。

瀬川会長＝土塁も1ヶ所ぐらい切っているかどうか。

中村課長＝反対側の地権者が違うため、切ることは難しい。道路のところで切ったところである程度わかるし、大きく3回拡張している。最初の版築は非常にきれいにやっている。2回目、3回目はものすごく雑につくっているので、緊急性があるか、堀あげたものを上に盛って、最初の土塁はおそらく、稗貫氏時代の可能性がかなり高い。

瀬川会長＝稗貫よりも遡ることはできるか。

中村課長＝無理ではないかと思う。

瀬川会長＝長者が原とそっくりである。

中村課長＝一応、安部氏の館伝説があり、それは排除しないが、そこまで遡れるかどうか、ちょっと難しいところがあるかもしれないが、1回切ってその報告をまだ出していないので、それも含めてやる。

瀬川会長＝けっこう古い土師器が出ているので、これも検証してください。

中村課長＝わかりました。

続いて、施設管理の総合文化財センターについて武係長、石鳥谷農業伝承館等について、小原係長が説明

及川教育長＝（たばこ史料館について補足説明）今後の活用方法については、議会答弁では、貴重な資料を随時、機会を捉えてやっていくということで、施設整備までは言及していない。文化財センターなどでの展示を念頭に置いているということ。

○質疑応答（主なもの）

阿部委員＝大迫の郷土文化保存伝習館のオープン時、招かれ出席した。その際、舞台にしめ縄を飾っていたが、そのしめ縄が市販の縄を使っていた。指摘したところ、（神楽）関係者で、三つあいの左縄を緋なえる人が誰もいないためとの回答であった。これは、ユネスコ世界無形文化遺産の名折れではないか。

もし良かったら、神楽保存会の若手の方々に、その縄緋いについて、講習会を開き教えても良いと考えている。

小野委員＝（関連して、）神楽の幕もおかしい。今、南部藩の紋を使っている。本来神社の神紋でなければならない。

中村課長＝幕は、小野さんのいうとおり。一番最初に、石鳩岡神楽が、申請してもらったということからで、神楽衆にいわせると向鶴を付けるとかっこいいということ、それが広がって現在のようなになった。

瀬川会長＝南部さんに認められたということを示したいということもある。本来は、小野さんの説のとおりだと思う。

中村課長＝しめ縄の件は、神楽衆に話をします。今度、みちのく神楽大会があり、

その際に全体の方々に話をしてみます。

中田委員＝しめ縄の緋い方云々は、まだ良い方。ひどいところでは、ビニール縄のところもある。また、前の年のものをそのまま使うところもある。

（以上で事業計画について了承）

5 その他

中村課長＝会議冒頭で、教育長から被災地の埋蔵文化財の話があり、詳細について報告する。

被災地に関する埋蔵文化財について、高台移転のところは、ほとんど遺跡にかかっていることから、文化庁では、なるべく発掘調査を軽減化するというので、本格調査ではなく、確認調査で住宅を建てさせる方向であること。あるいは、密集しているところは、盛土してその上に建てるのを許可することで進めている。

6月14日、こちらから、陸前高田に、発掘機材がないということから、希望のあった平板、洗いカゴ等を陸前高田市教育委員会に届けた。今後も希望があれば、その都度届けていきたい。

その際、現場を見たが、高台の斜面地は盛土では無理で、切り土で家を建てている。軽減化するといっても、実際には調査しなければならない状況になっている。調査担当者が少なく、非常に苦勞していた。来年度以降が、大規模造成本格化となることで、現在は、個人住宅のみの対応。大規模な移転となればかなりの調査が必要になってくるとのこと。花巻からも極力手伝いをしようと言っているが、こちらも（調査）職員が2人しかいない状況から、せめて内容の整備関係で支援しようと考えている。

及川教育長＝流されたところは、かつては海のところ。今、上に上がろうということで、例えば、高田高校も上に上がることで決まっているが、掘れば必ず（遺物）が出てくるところ。いったい、いつになったら校舎ができるのか、先日、陸前高田の教育長に会った際にお聞きし、簡素化ではなく、目をつぶってもらわないと間に合わないというような悩みを吐露された。

中村課長＝個人住宅でも堂の前貝塚という有名な貝塚があるが、足の踏み場もないくらい土器が出ており、そこに住宅が建つというようなことで、大変な状況。今、秋田県、福島県の方が担当職員として調査しており、個人住宅で手いっぱい状況。

（県内で職員を派遣しているのは）盛岡市、北上市、あともう1ヶ所市で派遣している。

高橋久委員＝アツモリソウについて、若柳議員などから紹介され、大迫の栃洞というところに、個人的に山に移植して、観光地化しようとしているところがある。市長も見に行ったらしい。県立大の教授が指導しているとのこと。アツモリソウの里をつくりたいとの希望。このアツモリソウの保護という観点ではどのようなものか。お聞きしたい。

中村課長＝一時期騒がれたこともあり、宮守などでは徹底的に採りつくされ、自生のものがほとんどなくなった。北上山地には、大迫を含めて自生地がいっぱいあったが、ほとんど採りつくされ、今、産直で売っている。一時期保護運動があったが、

なかなか難しいということで、その後、こちらでは手つかずの状況。

大森委員＝私も声をかけられていたが、まだ行って見てない。かつては売買取引の対象であった。

6 閉 会 17:00